

碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
神奈川 碩心会 発行

3年3月現在 会員数
3地区 170名
3地区 253名
大船地区 48名
(合計) (471名)

3年3月号 (224号)
3月発行 者 萃
根岸 編 集 者
中村 愛 岳

平成三年三月一日

松井岳洋先生逝去

社団法人日本詩吟学院岳風会の前理事長であり、現在は常任顧問として、そして、碩心会の名誉会長でいられた松井岳洋先生が、三月一日午前九時二十四分、鎌倉額田記念病院に於て病氣療養中のところ逝去されました。享年八十七才。

亡くなられた三月一日は、今年になってはじめての、みぞれまじりの小雪降る寒い日でした。松井先生の死を悲しむ多勢の方の涙と思えました。そして二日の通夜、三日の告別式の日は打って変ってよい天気となり、多勢の方々の参列をいただきました。これも亦、松井先生の御人徳による天のお授けと思えました。一同心から御冥福をお祈り申しあげます。

尚来る三月十日には、岳風会ホールに於て、日本詩吟学院、学院葬として葬儀、告別式が行われることになっております。

※四月号を故松井先生の追悼号にしたいと思っておりますので、追悼の言葉、思い出等お寄せいただきたく、御協力下さいますようお願いいたします。
(広報部)

「碩心」とは：

漢和辞典をひらきますと(碩)とは、大きい、盛んなどという意味が書かれています。

(碩人)：すぐれた人物、大人。(碩言)：立派な言葉。(碩学)：学問が広い。

(碩量)：立派な人物、器量が大きい、等の例句があります。そこで「碩心」とは：ひろい大きな心、立派な心、心をひろく等の意味に解せます。

このように立派なすばらしい会名をつけて下さった松井先生に心から敬服すると共に、各人が団結して、名実共の碩心会ならんと努力したいものです。(新しく入会された方々のために再掲載いたしました)

◎三月の行事予定

(神奈川選抜予選会)

とき・3月10日(日)

ところ・平塚農業会館

※碩心予選会合格者10名が参加します。

(第99回全国吟道大会)

とき・3月17日(日)

ところ・明治神宮記念館

(碩心会春季審査会)

とき・3月24日(日)9時30分受付

ところ・逗子図書館ホール

春爛漫の信濃路を訪ねて

頌心会 墓参吟行会へのお誘い

企画部のお骨折により、一泊二日の右吟行会が行なわれることになりました。

と き・4月13日(土)～14日(日)

主 会 費・三万円
コース・頌心12月号に掲載済み

現在参加者確定76名+保留2名となっておりますが、追加申込みができますので、多数御参加をお待ちしております。申込みはなるべく早く、担当指導者を通じて村田企画部長へ。千曲川・小諸を訪ね、桜の名所懐古園の桜も満開の頃です。お楽しみに。

道東の秋を満喫

県本部 北海道吟行会へのお誘い

県本部主催による三泊四日の右吟行会が行なわれます。

と き・10月24日(木)～27日(日)

主 会 費・九万九千円(分括払可)
コース・頌心1月号に掲載済み

今年度は秋の全国大会が100回目に当り、10月13日(日)東京で行なわれますので、気楽な吟行会のみとなります。参加御希望の方はお早目に村田企画部長方へ申込みを。

吟じこむ… ことの大切さ

中村愛岳

去る2月10日に皆伝、17日に九段以上の審査が行なわれ、頌心会の受審者全員が合格され、おめでとうございます。

私も審査のお手伝いをさせていただきましたが、皆さんの精いっぱい打ち込む姿には胸打たれました。けれども詩文、節調のことで頭いっぱいらしく、詩情までもうひと息…が実感でした。私の頭の中に審査の点数は何を基準につけるかといわれた言葉が今も残っていて(1)詩情、(2)発音、(3)発声、(4)吟法、(5)音位、(6)態度です。その中の(1)詩情が出せたら占めたもの…だが難かしい。ではどうしたらよいか…。私は自分なりに「吟じこむ」という事を心にいい聞かせています。人生の年輪と同じく、年を重ねた方には何か得るものがあると同じく、吟じ込むことよって多少なりとも味が出るのでは。それにはまず詩文の内容をつかみ、詩文を覚え、回数を重ね吟じこむ。そうしたらいつの日にか詩心にとけこんで、おのずと情感も湧くのでは…。

来る3月24日の頌心会春季審査会も間近です。心を打ちこんで回数多く吟じ込んでみては…。まずは御参考まで。

十段の審査を終えて

矢嶋悦岳

桃の花もほころび、沈丁花の香りが春を呼んでいる昨今です。

皆様、今頃は春季審査会に向って、一生懸命の頃と存じます。私も去る二月十七日、十段の審査を済ませました。さぞ肩の荷がおりるであろうと思っておりましたところ、張りのない空しい日々を過しております。入会してから二十余年…春季・秋季に、

中伝からは年に一度、奥伝からは二年に一度、皆伝からは三年に一度と、心身共に最高の状態にもって行こうと努力し、勉強し、そして失敗、今度こそはと思う連続でした。これが最後の審査になるので、悔いのないものにしたいたいと思っておりましたのに、又々失敗…悔のみ残る思いです。

会員には女性が多く、私の教室にも、主婦であり、母であり、職業婦人であり、三つも四つもの仕事をやりこなし、吟の勉強をしていられる方が多く、自分をかえりみても、大変な事だとは思いますが、がんばって下さい。

私事ですが、二十余年、審査の度毎、教本片手に代役審査員をつとめ、励まし、注

意してくれた主人に感謝し、これからも初心に戻り、勉強してゆきたいと思ひ、ペンを置きます。

大河ドラマ 太平記と鎌倉

秋元梁岳

NHKの太平記も、いよいよ楠木正成の登場となってきた。

地理的に近い鎌倉に関係が深いので、興味をもって見るようになる。59年頃から八回位にわけて鎌倉の社寺・史跡を歩いたことがあり、その時の資料と、月報「傾心」で、尋ねた社寺・史跡をひろってみました。しかし、こうした事が会の一つの文化行事となつて、続かなかつた事が残念ではあったが、参加された方々の、或いは愛好家の皆さんに多少の参考にでもなればと書いてみました。

葛原岡公園の一角にある、忠臣日野俊基の墓、同公園の西奥にある俊基を祀つた葛原岡神社、義貞の鎌倉攻めの戦場跡稲村ヶ崎、極楽寺坂、扇ヶ谷の化粧坂、鎌倉宮、そして護良親王の土牢、理智光寺跡の親王の首塚、妙法寺にある護良親王の苔むした墓、浄妙寺の尊氏の父貞氏の墓、報国寺の

足利家利、持氏、義久の墓、北条高時以下二百八十余名が割腹して果てたという腹切りやぐら、等々は歩をはこんだところですし、和塚から昔の刑場跡といわれる六地藏のあたり、往時の若武者が鎧兜に身をかけた、戦つたのであろうと思えば、何か惹かれるものがあるが、墓や碑は何も語ってはくれない。

折があつたら又、愛好者、吟友などを誘つて歩きたいと思つております。

(南北朝動乱を演出する公武の雄)

討幕一途に貫いた帝王……後醍醐天皇
転戦する剛勇悲劇の皇子……護良親王
鎌倉幕府執権……北條高時
幕府への反乱者……足利尊氏
北国に散る忠烈な悲将……新田義貞

(短歌) 堀内・D 板橋雅風

喘ぎつつ登りて愉し老い三人

仙元山の春の土踏む

道の辺のすみれに声の華やぎぬ

足の痛みもつい忘れりて

(俳句)

鳥たちも合吟に入る山の春

感動の(しのぶ会)に感謝

若葉支部一同

「あゝ来てよかつた」心尽くしの見学者席に座らせて頂き、昨日からの杞憂がスーッと消える安らぎ。と申しますのは、先輩からお誘いをいただき、一瞬私共まで行つてよいかしらとためらいました。けれども拝見したい思いが一つになって不躰と知りつつ会場へ。ところが「お席も用意してあります、どうぞ」との村田先生の優しいお迎え、嬉しゅうございました。

会場には、佳香先生のご遺影の前に、会員皆々様の、清新な中に継承された見事な舞は、まるで寒に堪えて咲き匂うばかりでした。そして、綾部会長並びに高橋先生の、声を詰まらせられての御挨拶の中に、今日までの並々ならぬご苦労を拝察いたしました。と共に、満堂に輝く佳香先生の慈しみも温かく……。

今日の日の為にご尽力頂きました諸先生に感謝申しつゝ、佳香会の皆様、感動の一日をありがとうございました。

佳香会の益々のご発展を祈念申し上げます。

二月二十二日

練吟
メモ 漢詩テスト (1)

○ 春夜洛城に笛を聞く 李白

誰が家の玉笛か暗に声を飛ばす
散じて春風に入りて洛城に満つ
此の夜曲中折柳を聞く

何人か故園の情を起さざらん

「通釈」誰の家で吹いている笛の音である
うか、どことも知れない闇の中から聞こえ
てくる。その音が春風とともに洛陽城中に
満ちみちている。さて、その曲は、別離を
いたむ「折楊柳」の曲である。この淋しい
曲の音を聞いて、故郷を思う情を起さぬも
のではないであろう。(以上教本三・56)

○「語釈」(教本にない)◎洛城・洛陽の
町。中国では町の周囲を城壁で囲んでいた

◎玉笛・玉は美称の接頭語、美しい笛。こ
こでは見えないのだから単に笛ということ

◎暗・どこからともなく◎声を飛ばす・聞
こえてくる◎散じて春風に入る・笛の音が

春風に乗って響く◎折柳・「折楊柳」とい
う別離の曲名◎故園の情・故郷を思う心。

○問題 (大学入試問題集から抜く)
一、次の文の○の中に、左にあげた三つの

語のうちから適当に選んで記入せよ。
折柳とは離別の時に用いる折○柳の曲

である。

揚 楊 陽

二、「暗に声を飛ばす」の暗とはどういう意
味か、最も適当と思うものに○をつけよ。

(1)どこからともなく (2)しんみりと
(3)夜晩く (4)こっそりと

三、この詩はどんな情調をあらわしている
か、次の語のうちから最も適当と思うも
のを○でかこめ。

閑寂 歎案 哀愁 濃艶 脱俗
四、第二句の「散じて」とは、何が散ずる
のか。

(1)人影 (2)花 (3)笛の声 (4)旅愁
五、第四句の大体の意味としては、次のう
ちどれが最も適当か。

(1)夜半で誰も起きておらず自分のみがこ
れを聞いて懐郷の情に耐えなかった。
(2)誰も寝たままで聞きつつ、懐郷の情に
耐えなかつたであろう。

(3)これを聞いて懐郷の情を起こした者は
そんなに沢山はいないであろう。
(4)これを聞いたなら、誰だつて懐郷の情を
起こすことであろう。

(5)これを聞いたなら、誰だつて起き出て懐
郷の情に耐えなくなることであろう。

○「解答」一、揚 二、イ 三、哀愁
四、ハ 五、ニ (全問正解が優)

(入会)

602 戸田恵美子 逗子市久木八八一八十三

(真澄) (電)〇四六八一七三三三三

603 富永延子 逗子市逗子三三四二

(〃) (電)〇四六八一七一一四五〇五

604 八神嘉子 逗子市久木八一六一三九

(〃) (電)〇四六八一七一一二九二

605 和田百合子 逗子市久木八一八九一七

(〃) (電)〇四六八一七三一一五七八

606 渡辺なか 鎌倉市二階堂六五三

(逗子A) (電)〇四六七一一三三〇八六五

607 加藤 力(再) 横浜市磯子区洋光台五五五

(大船A) (電)〇四五一一八三三一一二二七

(退会)

102 遠藤春風 (風 早) 369 長谷川藤泉 (一色A)

379 小暮洋山 (堀内G) 417 加藤尚山 (諏訪)

418 鈴木照山 (諏訪) 526 塚越暁泉 (真澄)

542 大貫フデ子 (唐木山) 560 金子春子 (逗子A)

鉛筆を手に机にもたれ、硝子越しに満開
の庭の梅をボケーンと眺めています。する
とあの松井岳洋先生の温容が目に見えてき
て涙ぐんでしまふ私です。傾心会の皆様
お骨折で、葬送も無事に終わりました。先生
どうぞ安らかにおやすみ下さい。あの世へ
旅立たれた先生を思いつつこの月報の編集
の仕上げをする私です。(三月四日記)